



5/14（月） JICA研修員 母国の発展のために

新しいJICA研修員16人が浦添市役所本庁舎で、副市長を表敬訪問しました。研修は、「公衆衛生活動による母子保健強化コース」と「農産物を輸出するための実践的植物検疫技術のコース」の2コースに分かれて専門技術を学びます。

研修員代表のミラネス・ジェイアールさんは、「母国の発展のために専門技術や知識を養うことはもちろん、浦添市や沖縄県のことも学び友好を深め、実りあるものになりたいです。今後多くの皆さんと交流できることを楽しみに、頑張ります!」と目を輝かせて意気込みを語っていました。



4/28（土） 彩る花々、なぐすくに憩いの場

宮城（なぐすく）地域交流の拠点である宮城ポケットパーク「アイ美花園」で地域住民や企業による交流会が開かれました。

自治会では宮城大通りの沿道をたくさんの花で飾っていかうと、婦人会や老人会などと協力して花を植える取り組みを続けています。園の周囲には赤や黄色や紫など色とりどりの花が咲き、お年寄りや子どもたちがベンチでひと休みに利用するなど地域の憩いの場になっています。

中心となって取り組んでいる新垣安伴さんは「この取り組みがきっかけで、宮城地域だけでなく他の地域にもつながり、広がっていけば嬉しい」と話しました。



4/20（金） 県内初の試み ふるさと納税返礼品に「見守りサービス」

ふるさと納税の返礼品に、郵便局の「みまもりサービス」を導入する協定の締結式が市役所で行われました。

返礼品の「みまもりサービス」は市内の居住者が対象で、郵便局社員が月に一回利用者宅などへ直接訪問して生活状況を確認する「訪問サービス」と、利用者などへ毎日決まった時間に電話をして体調確認を行う「でんわサービス」を提供します。

松本市長は「納税した人に喜んでもらい、この制度を利用して見守られる方が安心して暮らしていける循環が広がっていけば嬉しい」と話しました。

話題がいっぱい!
なかゆくい

副市長が決定しました



のぐち ひろゆき
野口 広行氏
(昭和31年生)

浦添市企画部長や浦添市総務部長を務め、平成26年浦添市副市長に就任

4月23日に行われた第191回浦添市議会臨時会において、野口広行氏（2期目）が決定しました。



5/17（木） てだこ市民大学スタート

ハーモニーセンターでてだこ市民大学の開講式が行われました。

てだこ市民大学は、市民一人ひとりの学習成果を「まちづくり」に活かせる社会の実現、学習を通してまちづくりに関わる市民の育成を目指す事業で、平成20年度から始まっています。

今年度は、20人の学生が「もっと浦添市のことを知りたい、地域のために何かしたい」という気持ちを胸に入学しました。上地武昭アドバイザーからは「100歳まで元気に生きるためには、バランスの良い食事と運動、そして社会活動が不可欠です。皆で楽しみながら学んでいきましょう」と激励の言葉が送られました。



5/8（火） 早くお家へ帰ろう「Go家運動」

ゴーヤーの日にちなみ、「Go家運動」のPR活動としてゴーヤー苗の贈呈式が浦添中学校で行われました。

「Go家運動」とは、「家に帰ろう」をテーマに学校、家庭、地域といった立場を超え、子どもたちの深夜はいいかい防止意識の向上を目的とする運動です。

ゴーヤー苗の贈呈者である照屋幸勇さんは「苗を育てることで、生産者の思いや食べる喜びを感じる感受性を養ってほしい。ゴーヤーを食べて体調を崩しがちな梅雨や夏を乗り切りましょう」と話しました。1500鉢のゴーヤー苗が、浦添市内の自治会や小中学校などに配布されます。



4/25（水） 浦添市西部開発まちづくりシンポジウム

浦添市西部開発地区のまちづくりについて考える「浦添市西部開発まちづくりシンポジウム」がてだこホールで開催されました。

第一部では沖縄国際大学産業総合研究所特別研究員の伊敷豊氏がマーケティング戦略を導入したまちづくりについて基調講演を行い、観光客の増加を見据えたうえでターゲットや目的に合わせたまちづくりの重要性を語りました。

第二部では浦添市のポテンシャルを最大限に活用したまちづくりについて、4人のパネリストが経営・観光・地主・行政などそれぞれの視点で議論しました。



4/24（火） 地域愛に感謝 浦添市民憲章実践者表彰式

地域貢献のために優れた取り組みをした個人・団体に贈られる浦添市民憲章実践者表彰式が市役所9階講堂で行われました。

市民憲章は、自然愛・人間愛・遵法・公德心・勤労・健康・平和・文化の5部門より、市が掲げた目標を常時または定期的に継続されている個人・団体が対象で、今年度は個人の部16人が表彰されました。

受賞者の砂川清徳さんは「市民憲章は光栄であり、感謝の気持ちが一杯です。地域支援活動は今回で終わりではなく、本日の表彰をスタートの証だと思ってこれからも頑張っていきたい」と新たな決意を述べました。